

令和4年度ひきこもり支援調査について

柏市保健福祉部 福祉政策課

調査概要

実施 内容

- 市内の「ひきこもり」状態にある**当事者**や**その家族**の実態を把握・分析
- 民生委員・児童委員**（定数577）の方々にご協力いただき、担当地区において日頃の活動の中で**把握している状況**についてアンケート調査を実施

この調査 における ひきこも りの方

- 厚生労働省の定義と同様とし「仕事や学校に行かず、家族以外の人とほとんど交流せずに、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」にある方やこの状態に近い方、可能性がある方

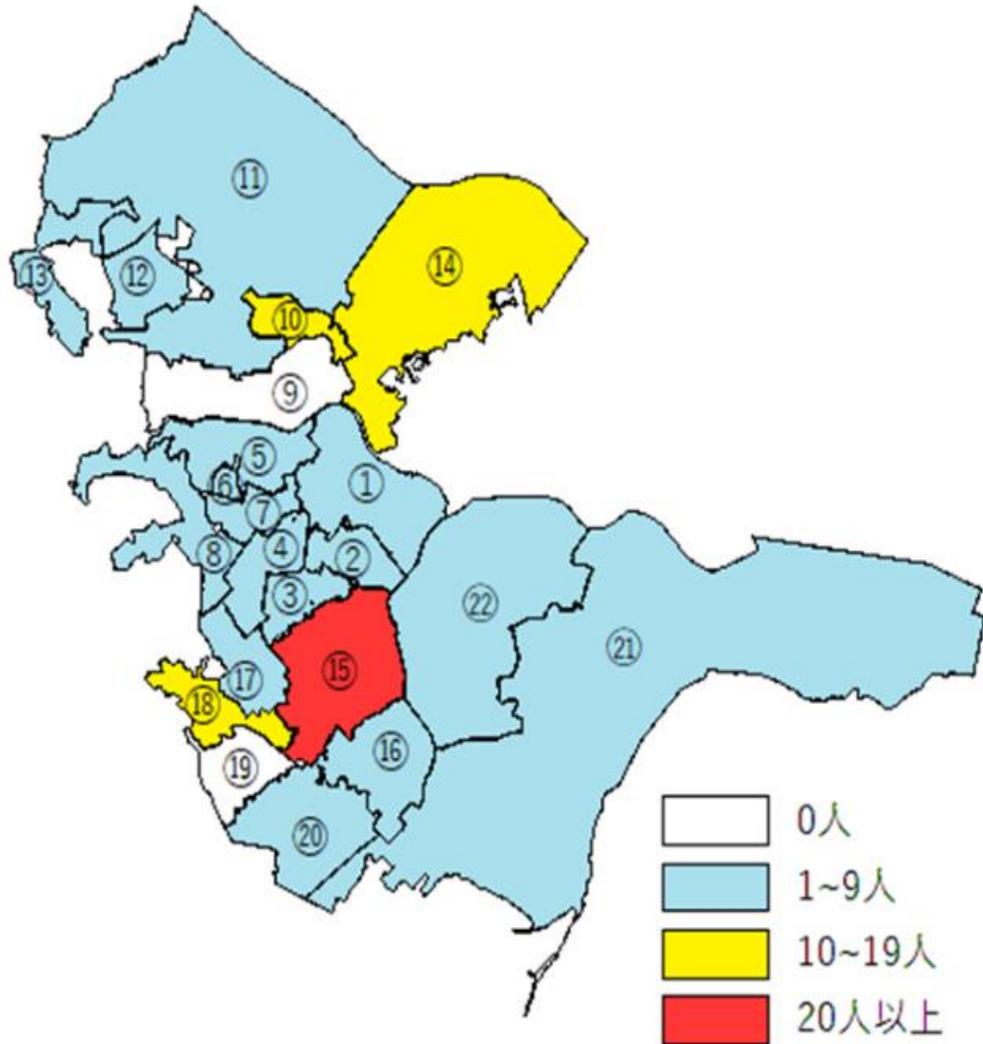
項目

- 基本属性**（人数、性別、年齢層、期間等）
- 支援状況**（支援機関に繋がっているか、民生委員・児童委員の支援等）



当事者や家族の聞き取りではなく
民生委員・児童委員の方々の「把握している状況」とした

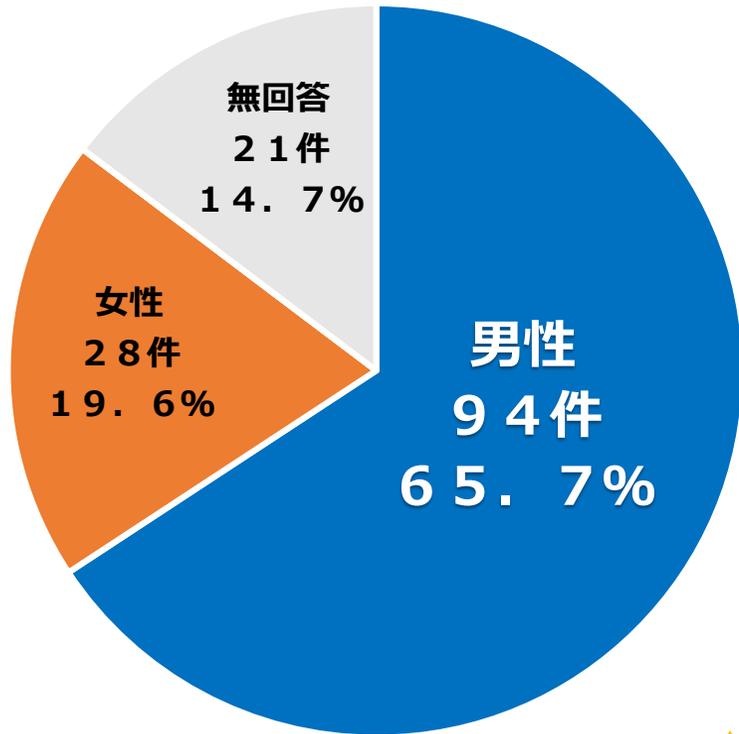
結果概要 地域ごとの人数



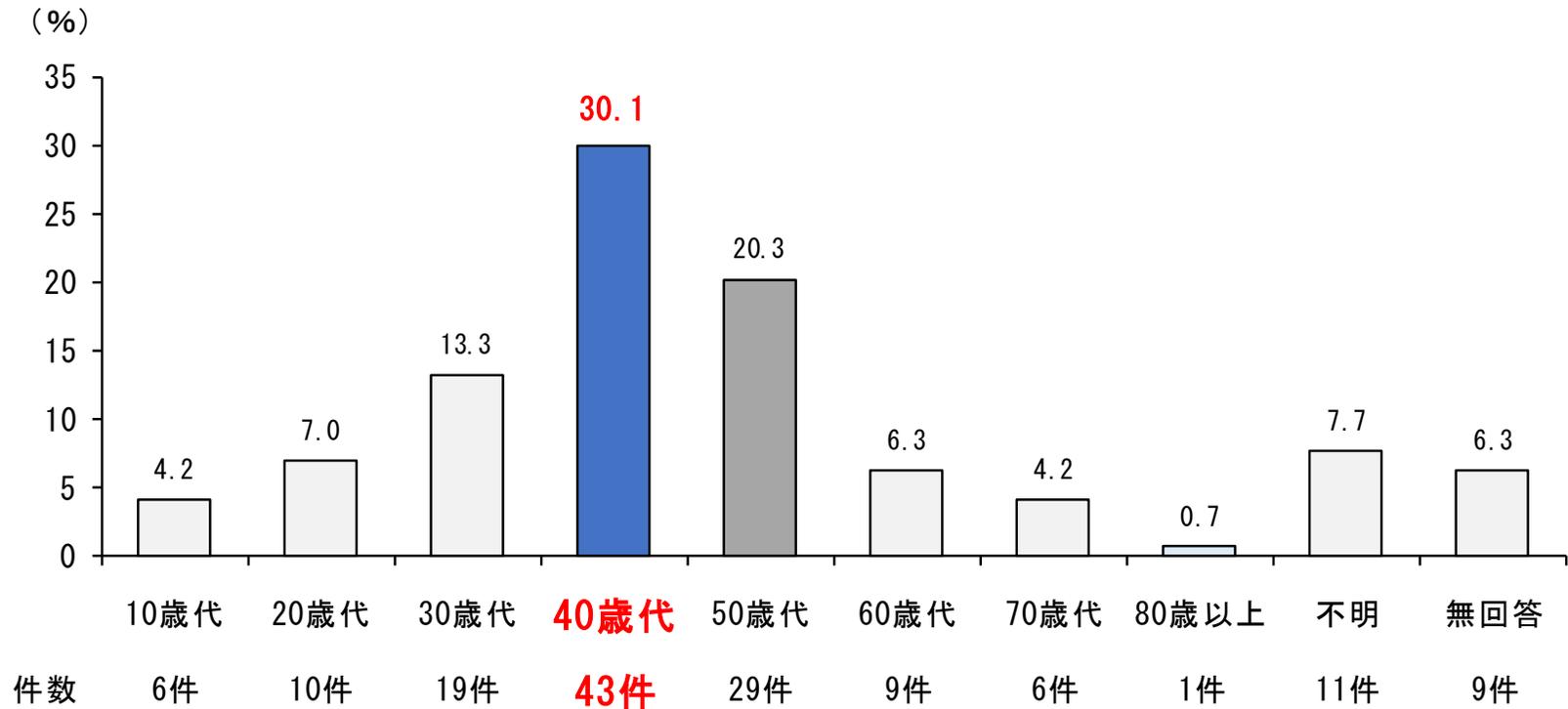
①柏中央地区民児協 (6人)	⑫田中・柏の葉地区民児協 (5人)
②新田原地区民児協 (4人)	⑬西原地区民児協 (6人)
③永楽台地区民児協 (7人)	⑭富勢地区民児協 (12人)
④富里地区民児協 (3人)	⑮土地区民児協 (23人)
⑤豊四季台西地区民児協 (6人)	⑯藤心地区民児協 (5人)
⑥豊四季台地区民児協 (1人)	⑰光ヶ丘地区民児協 (7人)
⑦旭町地区民児協 (2人)	⑱南光ヶ丘地区民児協 (14人)
⑧新富地区民児協 (2人)	⑲酒井根地区民児協 (0人)
⑨高田地区民児協 (0人)	⑳南部地区民児協 (8人)
⑩松葉地区民児協 (10人)	㉑風早南部手賀地区民児協 (9人)
⑪田中地区民児協 (4人)	㉒風早北部地区民児協 (9人)

結果概要 属性

性別



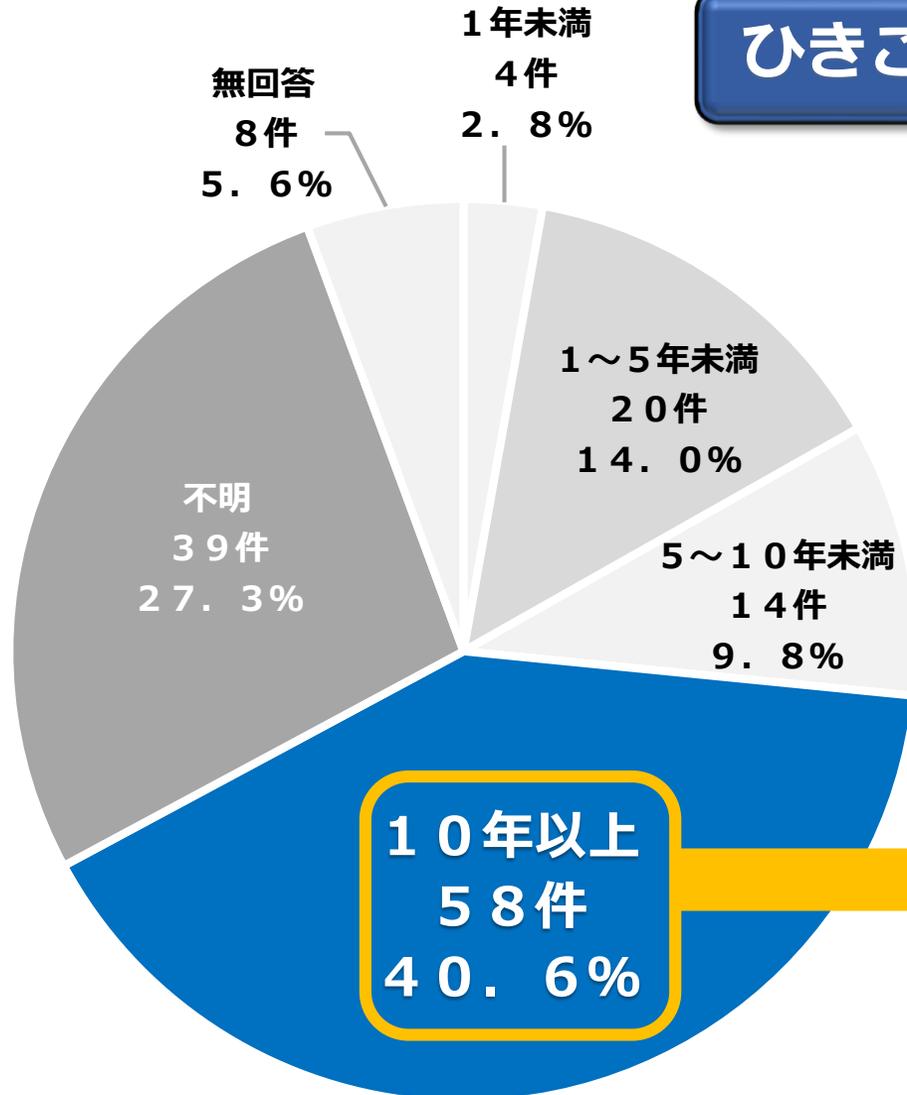
年齢層



男性が全体の**7割近く**を占め、**40代**が全体の**約3割**を占めている。

結果概要 属性

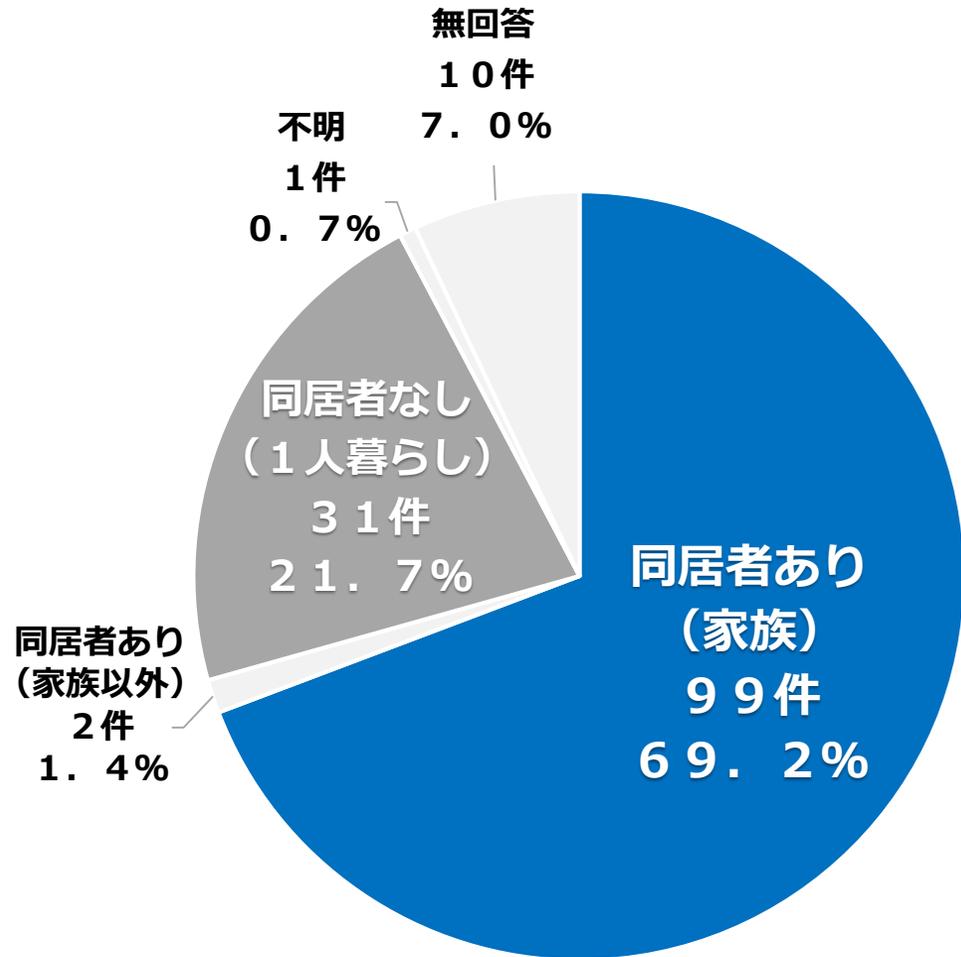
ひきこもり状態の期間



10年以上ひきこもり状態の方が全体の約4割を占めており、その中でも30歳代~50歳代が多いことがわかる。

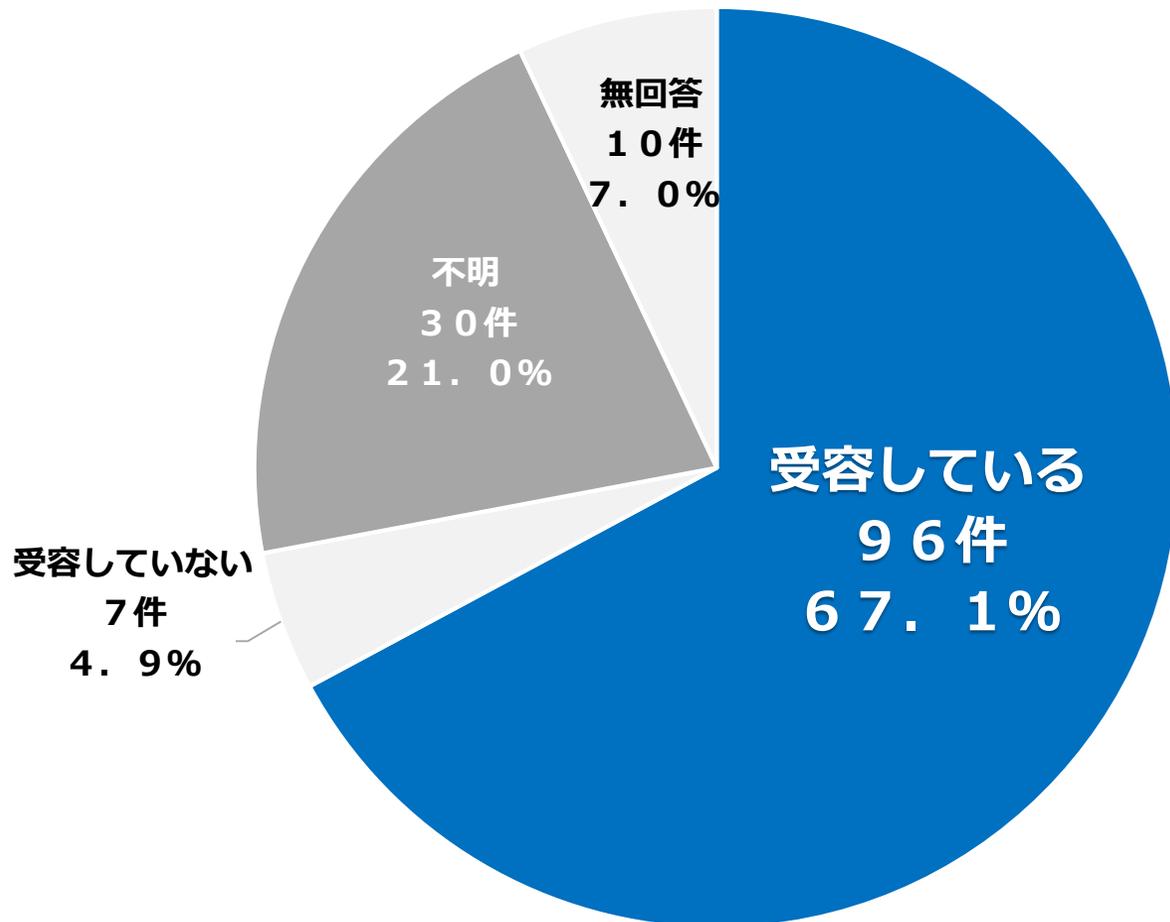
10歳代	1
20歳代	5
30歳代	10
40歳代	21
50歳代	11
60歳代	3
70歳代	3
80歳以上	0
計	58

ひきこもり状態にある方の同居者の有無



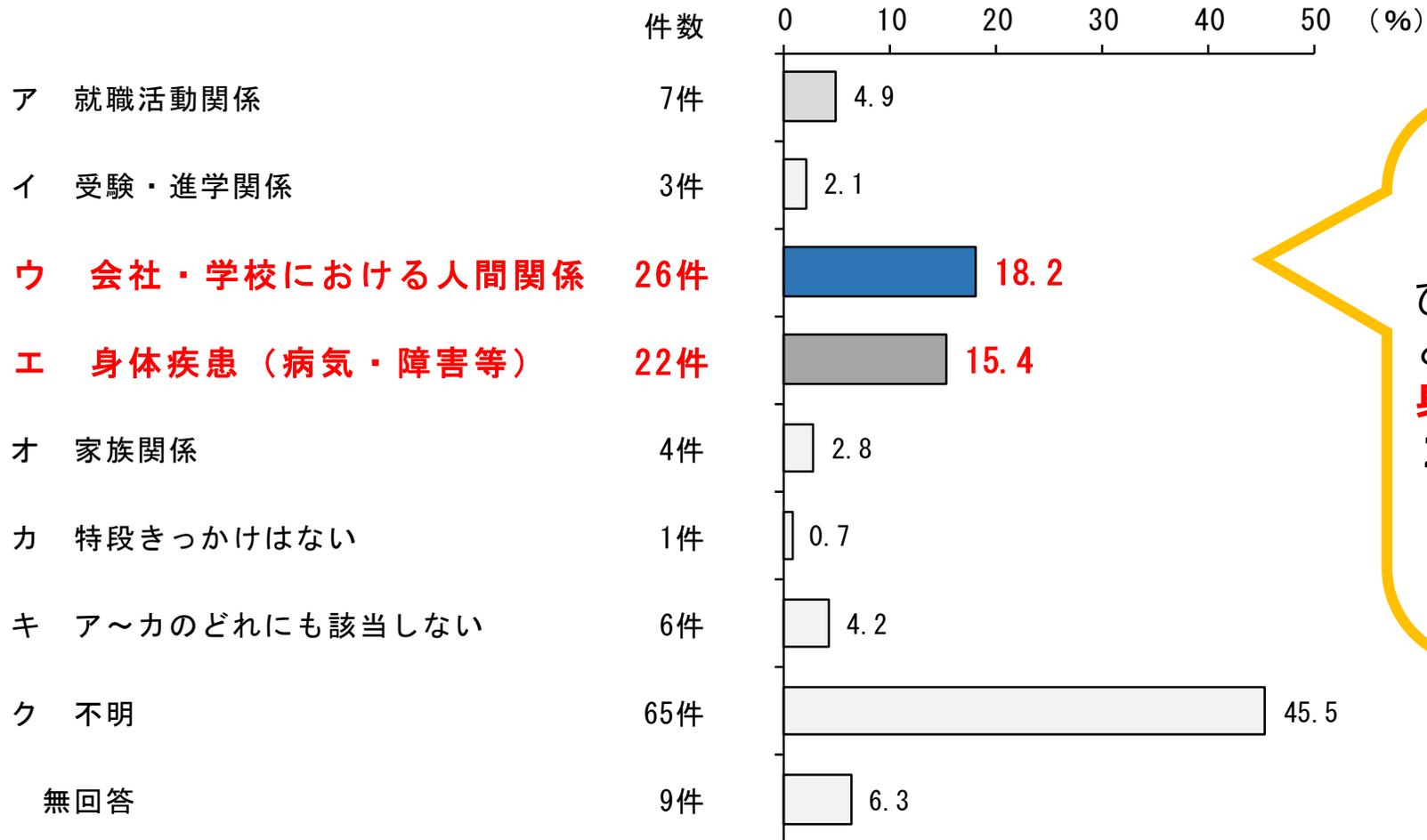
同居者ありが全体の**7割近く**を占めているが、**約2割**は**1人暮らし**であることがわかる。

家族の受容



ひきこもり状態について、**家族が受容している**が全体の**7割近く**を占めている。

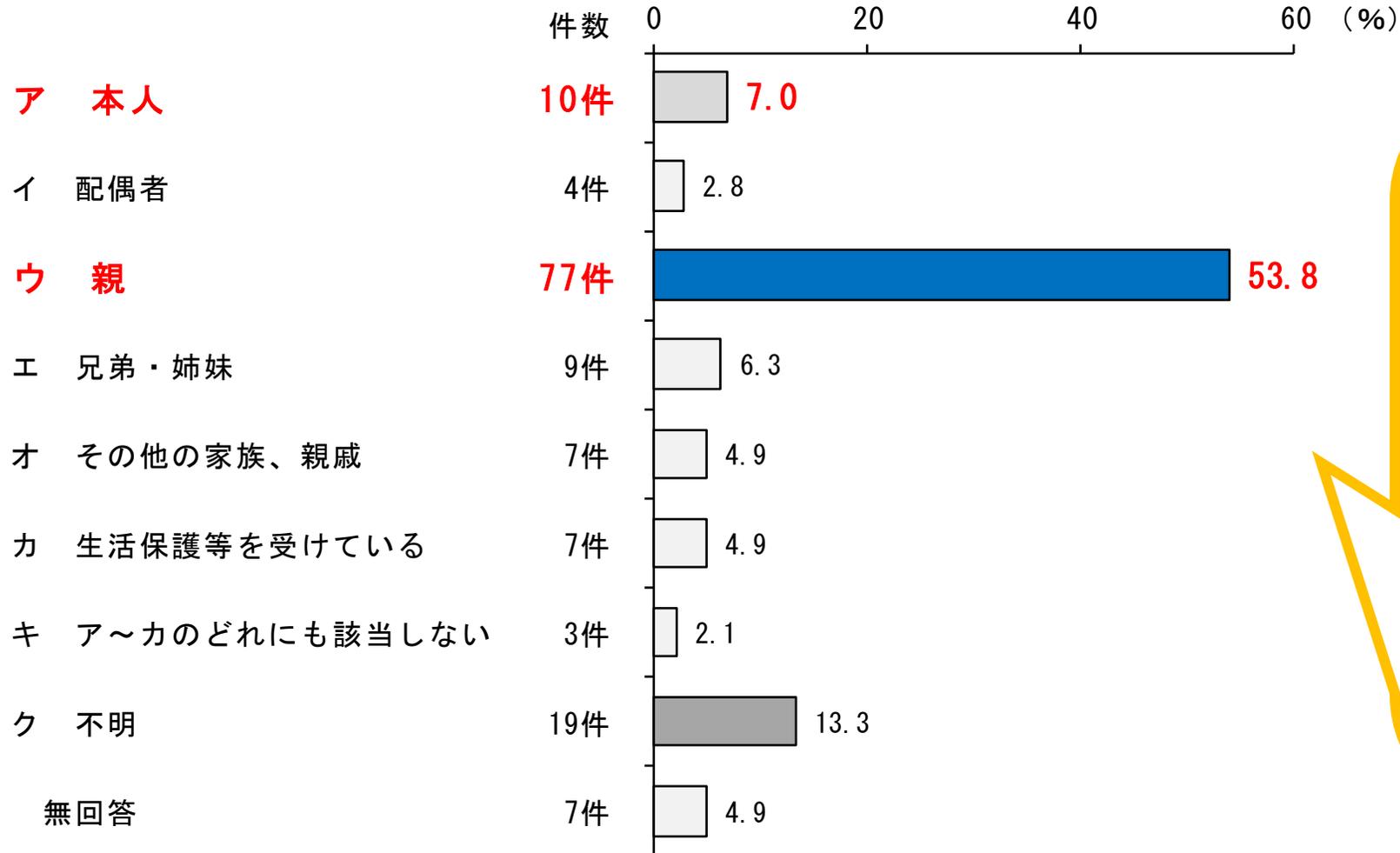
ひきこもり状態になったきっかけ



ひきこもり状態になったきっかけとして**会社・学校における人間関係**、**身体疾患（病気・障害等）**が**上位2件**を占めている。

結果概要 属性

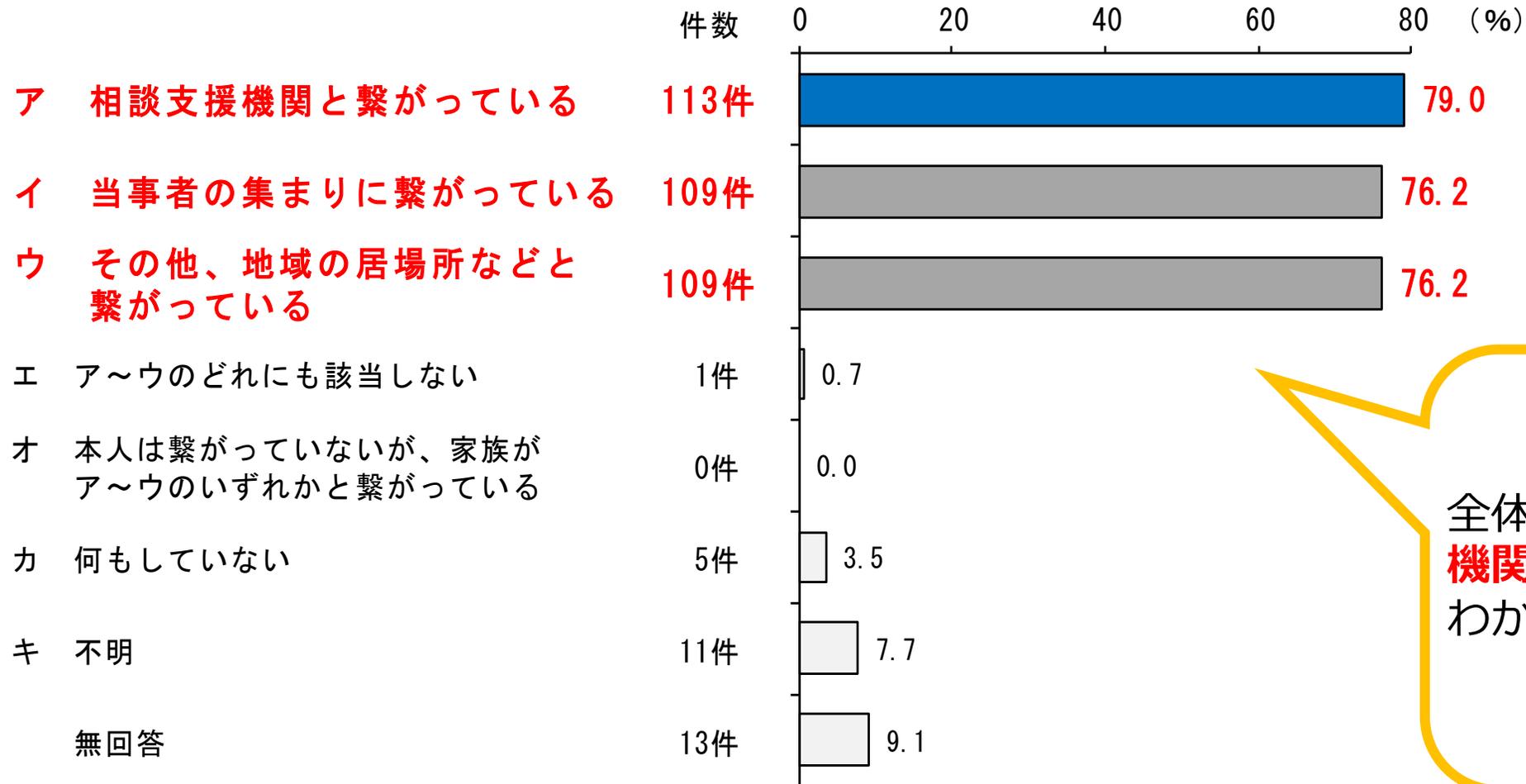
主として生計を立てている方



親が生計を立てているが全体の約半数を占めているが、1割近くは本人が生計を立てていることがわかる。

結果概要 属性

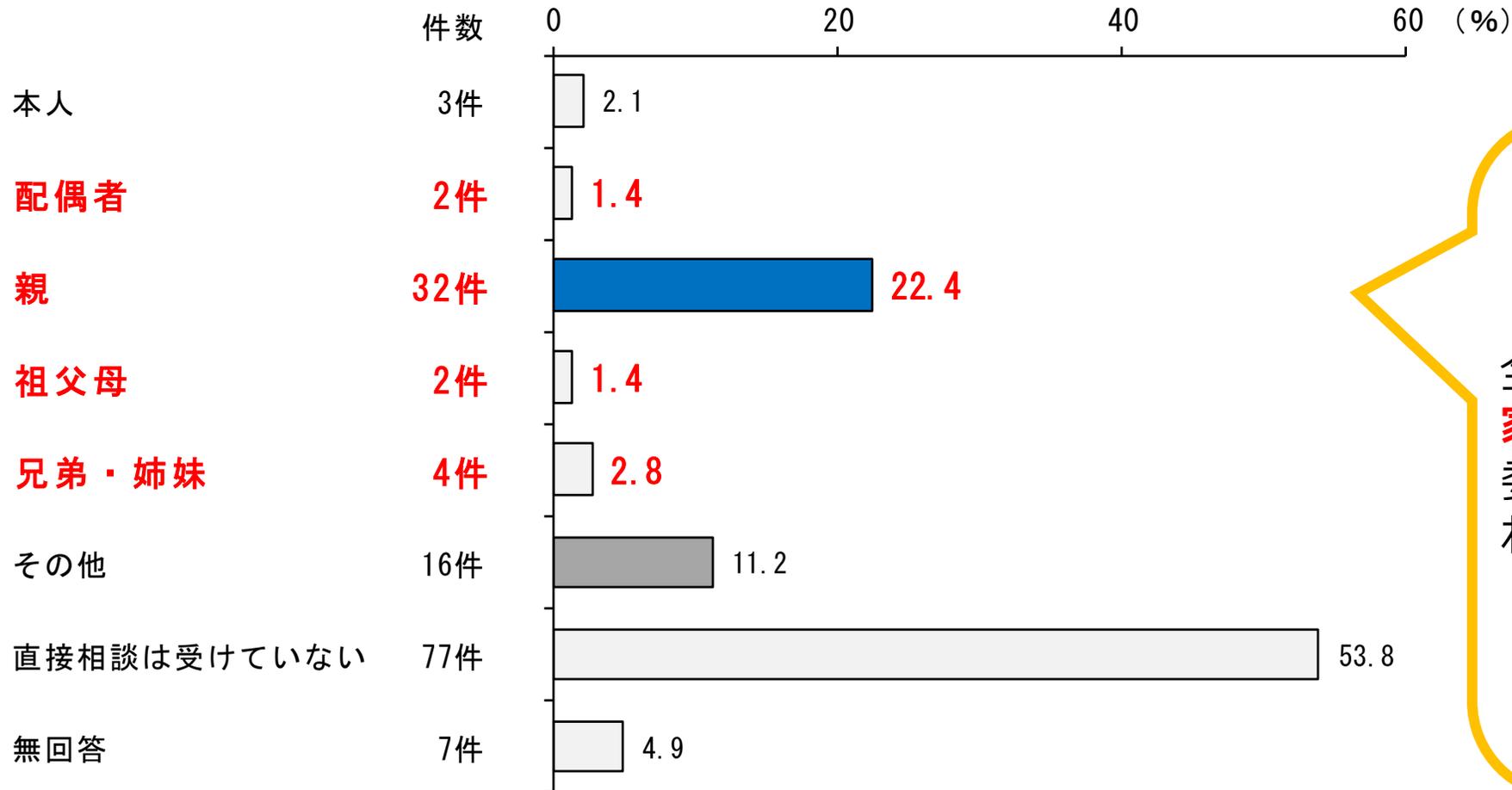
ひきこもり状態にある方の現在の状況 ※複数回答可



全体のうち8割近くが**支援機関等に繋がっている**ことがわかる。

結果概要 民生委員・児童委員の支援

民生委員・児童委員への相談者

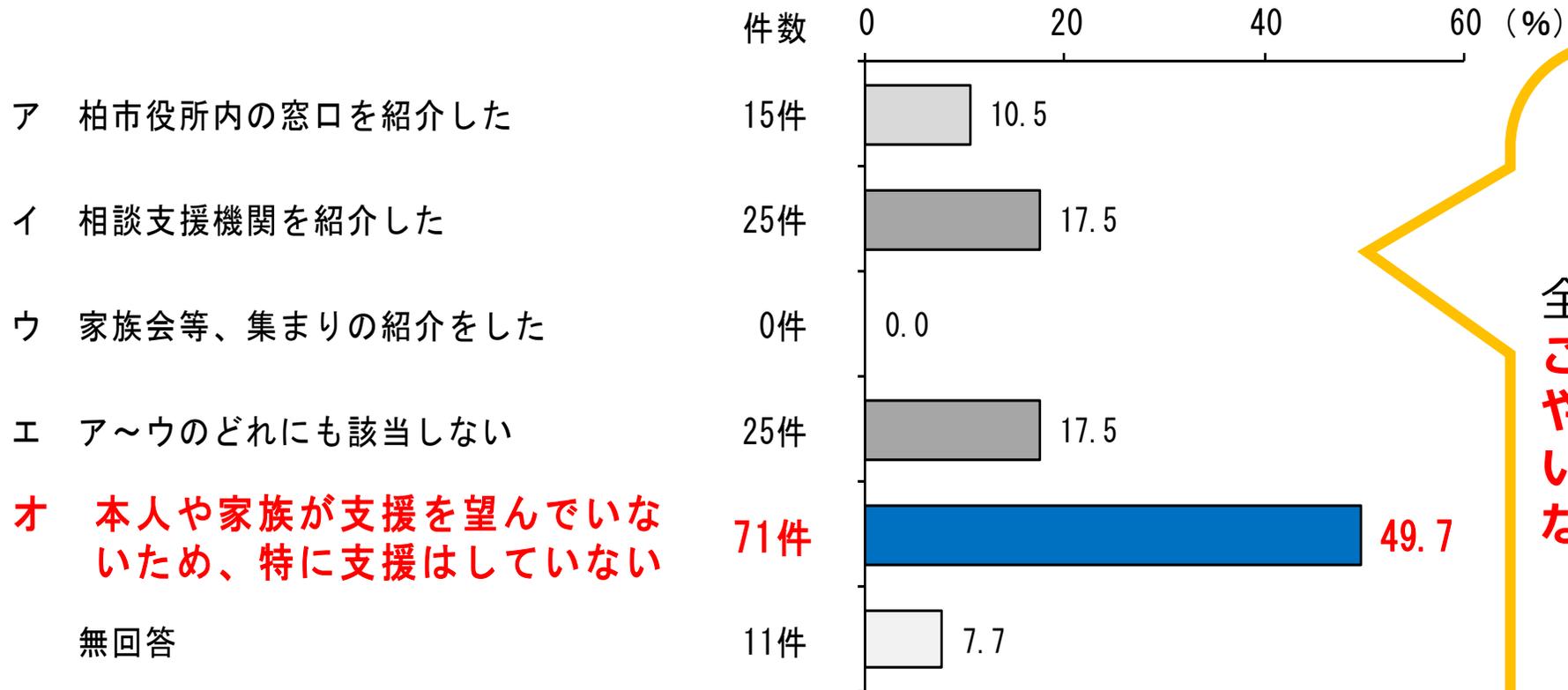


全体のうち**3割近く**が**家族**から民生委員・児童委員に相談をしたことがわかる。

結果概要 民生委員・児童委員の支援

民生委員・児童委員が行った支援

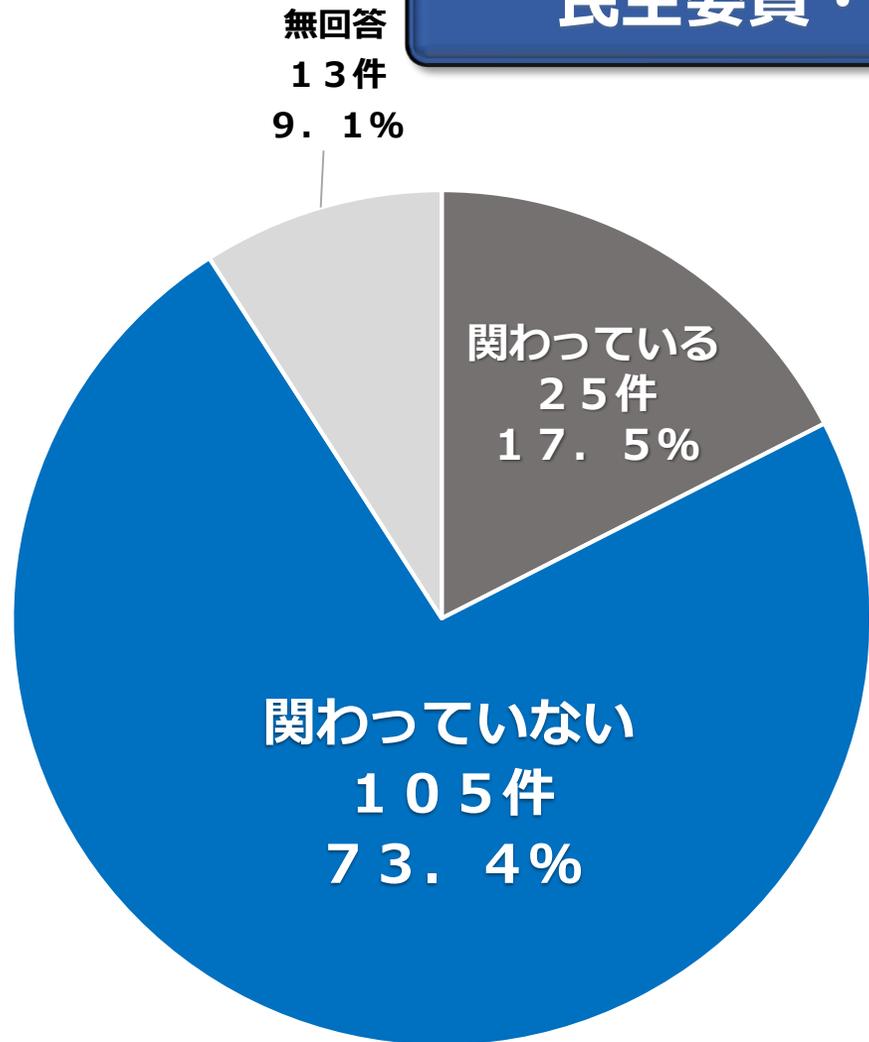
※複数回答可



全体のうち半数近くがひきこもり状態にある方の本人や家族が支援を望んでいないため、特に支援はしていないことがわかる。

結果概要 民生委員・児童委員の支援

民生委員・児童委員の定期的な関わりについて



全体のうち約7割が**定期的に関わっていない**が、**定期的に関わっている**と回答した2割近くの方に頻度をお伺いしたところ、**年に数回程度**と回答した方が最も多い。

まとめ－令和5年度に向けて－

【調査結果から見たこと】	【見えた課題】
<p>○全体のうち約8割が支援機関等に繋がっている</p> <p>○全体のうち約4割がひきこもり状態が10年以上と長期化している</p>	<p>支援機関につながっていても、ひきこもりが長期化傾向にあることから相談支援機関における支援状況を確認する必要がある</p> <p>特に、支援機関に繋がった後の支援状況を確認し本人や家族が求める支援を把握する必要がある</p>
<p>全体のうち3割近くが家族から民生委員・児童委員に相談をした</p>	<p>支援機関に繋がっていないひきこもり状態にある方や本調査で把握できなかったひきこもり状態にある方について把握する必要がある</p>
<p>全体のうち約4割がひきこもり状態が10年以上と長期化している</p> <p>特に、30歳代～50歳代の就職氷河期世代が多い</p>	<p>家族からの相談が多く、本人の意向が詳細不明であることから本人の意向を確認する必要がある</p> <p>就職氷河期世代の支援策が不足している可能性があることから就職氷河期世代に対する支援状況を確認する必要がある</p>

令和5年度～

○就労支援機関や相談支援機関等へのアンケート調査及びヒアリング

○ひきこもり状態にある当事者やその家族を対象としたWebアンケート調査

参考 自由意見（抜粋）

現状の課題について

- ひきこもり状態の方について、気になっていますが怖くて近付けません。ほとんどの方が暴力的で関わるのがとても怖い。手の打ちようがない状態。
- どこに相談してよいかわからない。

実態把握について

- ひきこもりの方を把握するのは困難。家族から情報を外に出さず、自分達で抱え込む。
- 主任児童委員として学校と連携し活動しています。不登校、不登校傾向の子ども達が中学卒業後、どうなっているのか気になる。

支援の取り組みについて

- ひきこもりに至るまでの原因やきっかけがあると思うので、その前の段階で見つけてあげられると良い。
- ひきこもりの人の行動(兆候)が、近隣に迷惑をかけていることがあるが、周囲の理解が深まれば近所付き合いが良くなると思う。
- 本人の行ける場所(趣味、スポーツなど)を見つける取り組み
- 個人の自由とし、近隣の迷惑がない場合は容認する。
- もっとひきこもりの周知を強化する。ひきこもりの方のフォロー方法について、分かりやすく理解出来るマニュアル整備をしていただきたい。
- 民生委員に対し、ひきこもりの理解を深める研修等が必要。
- ポスティングで必要な情報を渡し、興味を持ってもらう。